

和歌山病院での実習を終えて



寺前 友樹

6月26日と27日の二日間に渡って、和歌山病院で実習をさせていただきました。今回の実習は初めて大学病院を出て、地域の中核病院での実習でした。病院の大きさはもちろん、医療スタッフの雰囲気など、大学とは異なるアットホームな雰囲気を感じました。

実習では、主に結核病棟の見学とセミナーを受けさせていただきました。結核病棟の見学では、初めてN95マスクを着用し、その息苦しさに驚きました。結核病棟は、隔離病棟ではあるものの、とてもきれいな病棟でした。セミナーは、通常の講義形式ではなく、質疑応答を交えたものになっており、集中を切らすことなく取り組むことができました。特に、南方院長の胸部X線に関するセミナーでは、答えがわからなければ次の内容に進むことができず、時間との戦いの中、できるだけたくさんのお話を学ぶために班で一丸となって奮闘しました。次の日のブロンコ体操では、体を使って覚えるという全く新しい内容のセミナーでした。見て、覚えて、実践するということを繰り返し、習得するまで教えていただきました。優しくも厳しい南方院長の前で、少し緊張しながら、頭をたくさん使った2日間でした。また、一日目の夕方に、南方院長と食事をさせていただきました。食事では、南方院長の医師としての経験やこれからの私たちにキャリアについて、お話を聞かせていただくことができました。将来のことも考え始めるこの時期に、そのような貴重なお話を聞くことができ、とても感謝しています。

最後になりましたが、実習を受け入れてくださった、院長先生、副院長先生、並びに和歌山病院のスタッフの皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。